令和4年9月9日

令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和4年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）
中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	１０４人	算数	１０４人	理科　１０４人
第５学年	国語	１０２人	算数	１０２人	理科　１０２人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

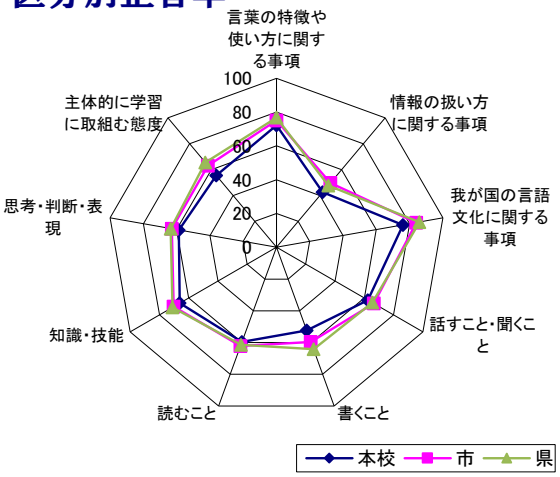
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.2	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	42.6	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	76.0	84.0	85.9
	話すこと･聞くこと	62.5	66.5	65.5
	書くこと	52.4	59.6	64.2
	読むこと	59.6	62.2	61.5
観点	知識･技能	66.1	70.2	71.1
	思考･判断･表現	58.7	62.9	63.6
	主体的に学習に取組む態度	55.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

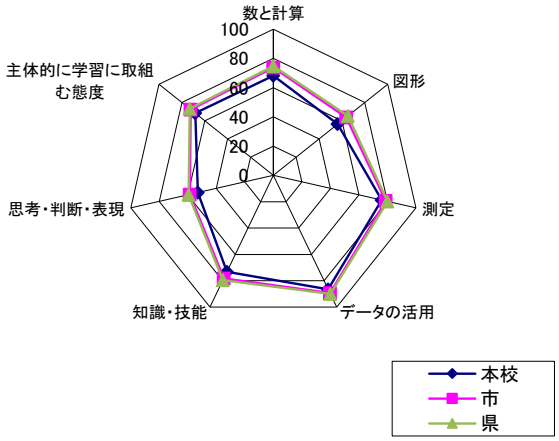
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ○第3学年に配当されている漢字の読みに関して，「交代」は県正答率を5.3ポイント上回り，98.1%だった。 ●第3学年配当漢字の書きに関して，「湯」，「起きる」は県平均正答率を下回っている。特に「研究」では，県正答率を14，5ポイントも下回っている。 ●主語と述語の関係については，正答率が60.6%と，県正答率を13.7%も下回ってしまった。	･既習の漢字が定着するように，朝の学習や家庭学習で繰り返し練習する。また，漢字を学習するときには，教師が書き順を示し，読み方を確認するなどして，重点的に指導する。 ･日常的に文を書くときには，習った漢字を使用して書けるよう指導する。 ･文章を書く際には，誰について書いている文章かを再確認させ，主語と述語の関係について，意識して文章を書くことができるようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ●言葉の学習で，国語辞典の使い方の理解については，正答率が42.3%と特に低い。 ●調べたことを文章にまとめることについて，情報と情報との関係を理解し，中心となる語や文を見つけて要約する設問は，県の正答率より4.4ポイント低かった。	･分からない語句が出てきた場合は，日常的に辞書で調べる習慣をつけさせる。国語辞典を使う機会を増やし，語彙を広げられるようにする。 ･文章の中から必要な語を選び，要約文を書く活動を多く取り入れ，文章を要約する力を身に付けられるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ●言葉の学習で，漢字のへんやつくりの理解について，県の正答率を，9.9ポイント下回っている。	･漢字を学習する際に，へんやつくりなど部首についての指導も行うことで，漢字の理解をさらに深められるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えているかについての設問では，県正答率を3.7ポイント上回った。 ●話し合いの内容を聞き取り，相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話すことについての設問は，県の正答率よりも15.1ポイント低い。	･学校生活でのあらゆる 話す･聞く場面において，それぞれの共通点や相違点に気付かせたり，話を整理しながら聞いたりできるよう指導する。 ･自分の考えを伝える際には，その根拠を明確にし，筋道を立てて話すことができるよう指導をする。相手意識をもたせ，どのように話したらより伝わりやすいかを考えながら話せるような支援をしていく。
書くこと	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ●指定された長さで文章を書く設問は，県の正答率よりも16.1ポイント低い。 ●段落の役割について理解し，2段落構成で文章を書くことについての設問では，県正答率より12.3ポイント低かった。	･文章を書く際には，自分が書きたいことの内容をはっきりさせて，「初め」，「中」，「終わり」の順で内容を整理した書き方ができるよう指導する。 ･まず自分の考えをしっかりと持たせ，その根拠を明確にしながら，文章に表せるような指導をする。
読むこと	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ○説明文の内容の読み取りで，叙述を基に段落の内容を捉えることについての設問は，県の正答率よりも4.6ポイント高い。 ●物語文の内容の読み取りでは，文章読んで感じたことや分かったことを共有することについての設問では，県の正答率より11.1ポイント低い。	･段落ごとに書かれている要点を押さえたり，あらすじを確認させたりするなど，内容を捉えながら読む習慣が付くよう指導する。 ･朝の読書の時間などを活用し，文章を読むことの楽しさを味わわせながら，読み取る力の育成につなげる。

宇都宮市立五代小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	73.8	74.8
	図形	56.3	63.7	65.3
	測定	76.0	78.9	80.1
	データの活用	86.5	89.3	90.0
観点	知識・技能	73.1	78.3	79.5
	思考・判断・表現	52.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取組む態度	68.3	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

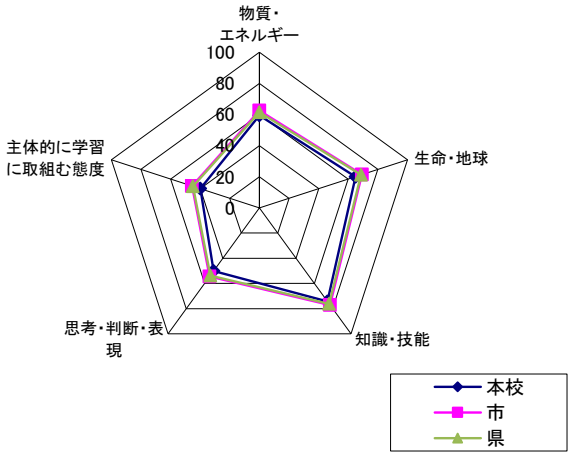
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県・市の平均値より下回る。 ○小数のしくみ，3位数のたし算，あまりのないわり算，文章問題に合った口を使った式を選択するなどの問題の正答率は，県よりわずかに高い。 ●波及的繰り下がりがあるひき算の問題の正答率は，県よりも16ポイント低く，その他の問題でも10ポイント以上低いものが多い。	・計算力に個人差がある。基礎基本的な問題を確実に正解することができるよう，計算スキルやスマイルネクストなどの課題に繰り返し取り組ませるようにする。 ・繰り返し繰り下がりのある問題に対して苦手意識が見られる。昨年度は繰り上がりが繰り返される問題も同じような結果であった。応用力を身に付けさせるために，繰り上がり，繰り下がりのある計算問題に取り組ませるようにする。
図形	平均正答率は，県・市の平均値より下回る。 ●大きさの同じ6個のボールがぴったり入っている箱の長さから，ボールの半径を求める問題の正答率は，県より15.4ポイント低い。 ●円の直径についての問題は，県の正答率より12.6ポイント低い。	・円と球の学習について，実際にボールを用意して操作させたり，タブレット端末を使ってシミュレーションができるような体験型学習を行ったりすることで，視覚的・感覚的に理解できるようにする。さらに，円や球などの性質を見いだし，図形の持つ性質が日常生活でどのように役立てられているか考察できるようにする。
測定	平均正答率は，県・市の平均値より下回る。 ○1分＝60秒の関係を使って考える問題の正答率は，県よりもわずかに高い。 ●身近にあるものの重さを推察して，適切な単位を使って表す問題の正答率は，県より10.9ポイント低い。	・私たちの身の回りでは，様々な単位が用いられていることを確認し，さらにどんなものに何の単位が使われているのか，児童の興味関心を基に，日常生活と関連させることができるよう指導する。 ・量感を身に付けることができるよう，実物を提示したり実際に測ったりする活動を取り入れる。
データの活用	平均正答率は，県・市の平均値より下回る。 ○前年度は2つの問題とも15ポイント程度，県の正答率を下回っていたが，今年度も下回っているものの差がわずかである。 ●棒グラフの1目盛りが表す数や，棒グラフからキャップの量を読み取る問題の正答率は，県とほぼ変わらないが，どちらもわずかに低い。	・表やグラフを正しく作成したり，読み取ったりするなどの基礎基本を定着させることができるよう，繰り返し指導する。 ・表やグラフを用いることの意味を理解し，それらを考察し，特徴や傾向を捉え表現することができるよう，考えや理由を言語化する機会を意図的に設ける。

宇都宮市立五代小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.4	62.5	61.5
	生命・地球	64.9	69.2	68.6
観点	知識・技能	74.3	77.2	76.3
	思考・判断・表現	50.0	54.4	53.7
	主体的に学習に取組む態度	39.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，県・市の平均値より約2～3ポイント低い。 ○「音のせいしつ」，「風やゴムのはたらき」，「物の重さ」において，基本的な知識を問う問題において，いずれも県の正答率を上回っている。 ●虫眼鏡で集めた光の範囲を小さくすれば，明るく温度が高くなることの理解を問う問題の正答率が県よりも8ポイント低い。 ●鉄くぎがどのような磁石になるのか指摘する問題について，正答率が36.5%と低く，県の正答率を6.6ポイント下回っている。 ●方位磁針の針として使えるかどうかを判断し，その理由を記述する問題では，県の正答率を上回っているが，正答率が26%と低い。	・実験などの体験的な活動を行う前に，事象を捉える，課題を見いだす，課題に対する予想をする，実験方法を考えるといった活動を丁寧に行い，課題解決学習となるようにする。 ・実験の結果を表，文章，画像，スケッチなど適切な方法で記録する活動を積み重ね，基本的な技能を高める。 ・実験の考察やまとめの際，事象の変化などを理科的な用語を用いて文章で表したり，他者に説明したりする機会を増やし，理由を明らかにしながら説明する力を育てる。
生命・地球	平均正答率は，県・市の平均値より約4ポイント低い。 ○「モンシロチョウの幼虫」，「ホウセンカとヒマワリのからだのつくり」の理解を問う問題において，それぞれ県の正答率を3.5ポイント，1.5ポイント上回っている。 ●虫眼鏡の使い方を問う問題において，正答率が39.4%で，県の平均を11.5ポイント下回った。 ●体の特徴から，昆虫か昆虫でないかを判断する問題では，県の平均を15.5ポイント下回っている。また，完全変態と不完全変態の昆虫の理解を問う問題についても，県の平均を10.5ポイント下回っている。	・理科で使う道具の使い方を実験や観察の実践的な場面で，正しく理解できるよう指導する。 ・昆虫について，観察したことから何が分かったのか，他の昆虫についてはどうかなど，一般化しながらまとめるようにし，判断力や思考力を高めていく。 ・身近な自然の観察について，植物や昆虫などへの児童の興味・関心が，スケッチ，文章で表す活動に生かしたい。その際，どうしてそのように考えたのかなど，自分の考えや理由が文章で表現できるようにしていく。

宇都宮市立五代小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

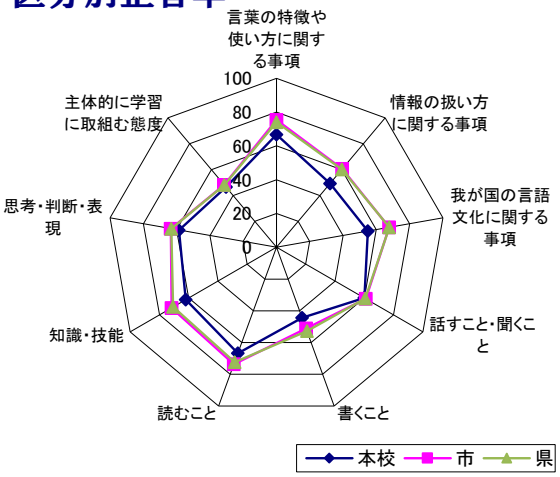
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「疑問やふしぎに思うことは，分かるまで調べたい」，「疑問やふしぎに思うことは，分かるまで調べたい」の設問において，肯定的回答をした児童が市や県に比べて高い。また，「本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を得ている」の設問において，肯定的回答をした児童が市や県に比べて高い。このことから，児童らは興味をもった事柄に対し，疑問をそのままにせず，本やインターネットなどを活用し，解決できていることが分かる。学習だけでなく，様々な事柄や事象に興味や疑問を抱かせ，自発的に問題解決を図れる児童を育成していきたい。
○「家で，学校の宿題をしている」の設問では，児童の肯定的回答が95.2%と高い。また，「学校の宿題は自分のためになっている」の設問の肯定的意見率も96.2%と高かった。このことから，学校で出された宿題は，自分の成長に必要なもので，必ずやるべきものとして認識していることが分かる。
○「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」，「家で，学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問では，市や県の肯定的回答に比べてやた高めであることから，学習への意欲が高いことが伺える。
○「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて,自分の考えを深めたり,広げてたりすることができている。」の設問では，肯定的回答をした児童が多く，市や県と比べても高い。話し合い活動の有用性を児童らが感じていることが分かる。これからも多様な考えが認め合えるような話し合い活動や，目的に合わせて，考えを深めていけるような話し合い活動を展開していく。
●予習や復習に関する項目では,市や県と比較するとやや低い。自主学習の方法や他の児童の良い取り組みなどを紹介し，学習効率を上げていきたい。
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の設問では，市や県と比べて肯定的回答率は同程度である。細かく分析していくと，「難しい」と答えた児童は市や県より少ないが，「どちらかといえば難しい」と思っている児童は市や県と比べて多い。書き方の例を提示したり，友達の書き方を紹介したりしながら，自分の意見や考えを書くことに慣れさせていきたい。
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問では，市や県と比べても発表することを苦手と感じている児童も多い。「クラスは発言しやすい雰囲気である」の設問は市や県と同程度であるが，さらに発言しやすい学級経営をしていくとともに，誰もが発表することに前向きに取り組み,多種多様な意見を認め合う雰囲気を学級内に醸成し，自信に繋げていきたい。
●平日，休日問わず，インターネットやゲームをしたり，動画を視聴したりする時間が長く，市や県に比べてもかなり高い。学習時間については，平日は市や県と同程度だが，休日の学習時間は市や県と比べても短い。学校の各種便りなどを活用し，各学年の推奨学習時間などを保護者へ啓発していきたい。

宇都宮市立五代小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.7	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	49.3	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	54.9	67.7	67.8
	話すこと･聞くこと	60.0	61.0	60.7
	書くこと	44.4	51.2	52.8
	読むこと	66.8	73.7	72.4
観点	知識･技能	62.1	71.7	70.6
	思考･判断･表現	58.6	63.5	63.2
	主体的に学習に取組む態度	46.5	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

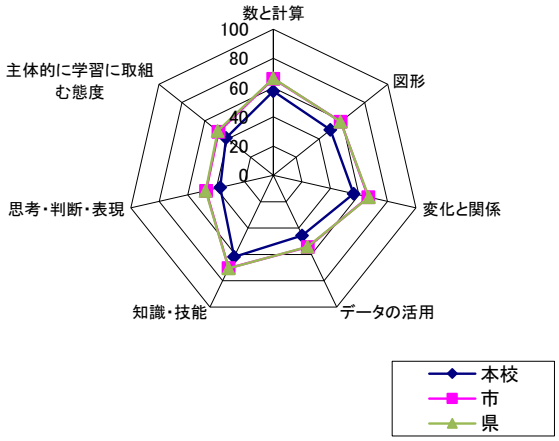
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市･県と比べて下回っている。 ○第4学年配当漢字の書きに関して，「覚める」は県正答率を4.6ポイント上回り，77.5%だった。 ●第4学年配当漢字の書きに関して，「周辺」，「札」は県平均正答率を下回っている。また，連用修飾語を問う設問では16.7%と正答率が低い。	･既習漢字が定着するよう，日頃から漢字の学習に取り組む機会を設けるようにし，指導をする際は，熟語や使い方などを意識するよう声掛けを行う。 ･修飾語を意識させるために，文章を読む際にはどの文節が主語，述語，修飾語に当たるのかを確認し，四角で囲うなどして視覚的にも捉えることができる活動を取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市･県と比べて大きく下回っている。 ●漢字辞典の使い方を問う設問では，県平均を14.6ポイント下回り，65.7%だった。 ●情報と情報との関係について理解し，中心となる語や文を見付けて要約しているかを問う設問では，県平均を15.2ポイント下回り，49.0%だった。	･定期的に漢字の学習の際に，漢字辞典を使って調べる機会を設けるようにする。 ･複数の情報で読み取ったことから，自分の考えをもち，理由や事例などを挙げて話したり書いたりする機会を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市･県と比べて大きく下回っている。 ●ことわざの意味を知り，正しく使っているかの設問では，県平均正答率を12.8ポイント下回り，54.9%と低い。	･定期的にことわざの意味を調べたり，覚えたことわざを場面を想定して例文に書いたりする活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市･県と比べてやや下回っている。 ○司会の役割を果たしながら話し合い，意見の相違点に着目して，考えをまとめているかを問う設問では，県平均を7.4ポイント上回り53.9%だった。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えているかを問う設問では，県平均を2.5ポイント下回り，89.2%だった。	･話合いの場を意図的に設け，相手の意見を整理して聞いたり，自分の考えと比べて聞いたりできるよう指導していく。 ･話の内容の中心を意識させて話を聞いたり，文章を要約する活動を取り入れ，相手が一番伝えたいことが捉えられるよう指導していく。 ･日頃から自分と相手の考えを共有する機会を設ける。
書くこと	平均正答率は，市･県と比べて下回っている。 ○内容の中心を明確にし，事実と自分の考えを書く設問では，県正答率と同程度の39.2%だった。 ●段落の役割について理解し，2段落構成で文章を書く設問では，県平均正答率を20.6ポイント下回り，32.4%だった。	･文章の中で重要だと思う個所に線を引くなど他の文と差別化を図り，段落などの構成を考え，適切に読み取ったことを相手に伝わりやすい文章にまとめることができるよう指導する。 ･書くことに苦手意識をもつ児童が安心して自分の考えたことを記述できるようにするために，普段から「書く」場面を意図的に設ける。
読むこと	平均正答率は，市･県と比べて下回っている。 ○説明文で叙述を基に文章の内容を捉える設問では，県平均を11.6ポイント上回り，88.2%と高い。 ●物語文の登場人物の気持ちや性格について，具体的に想像する設問では，県平均正答率を下回っている。	･文章を読む際には，各段落に何が書かれているのか要点を押さえながら読むことが習慣付くように指導していく。 ･文章全体を通して，各場面の出来事と登場人物の気持ちを関連付けて読み取り，それぞれのつながりを意識して読むように指導する。

宇都宮市立五代小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.6	66.1	66.4
	図形	50.0	58.9	58.8
	変化と関係	56.3	66.6	67.0
	データの活用	45.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	61.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	37.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取組む態度	41.3	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

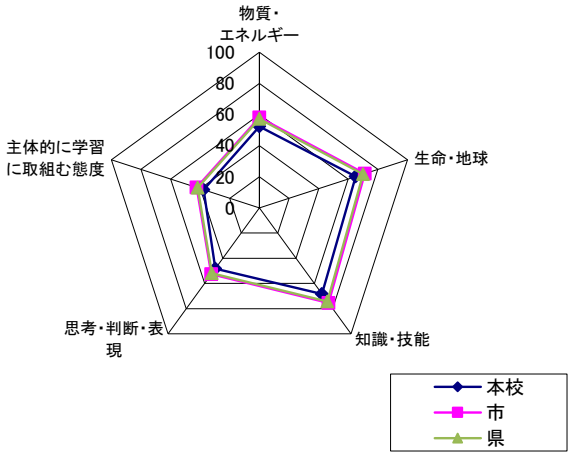
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県・市の平均値を下回っている。 ○億と兆・がい数の数の相対的な大きさを問う設問では，県平均を0.2ポイント上回っている。 ○分数を数直線上に表す設問では，県平均と同程度であった。 ●わり算・計算のきまりのあまりのある設問出は，県平均を9.3ポイント下回っている。また，小数と整数のわり算では，県平均を14.3ポイントと大きく下回っている。	・掲示物などを活用しながら，位の位置を一つずつ確認することで，確認しながら取り組めるようにする。 ・問題演習後の解説の際に，一つ一つの解法の手順を確認したり，言葉でのやり取りを交えたりしながら取り組めるような授業展開を図っていく。 ・机間指導を行い，個別支援を行うことで，知識や技能の定着を図っていけるようにする。
図形	平均正答率は，県・市の平均値を下回っている。 ○面積の単位の関係を説明する設問では，県平均とほぼ同程度であった。 ●複合図形で面積の正しいの求め方や式を表した図を選ぶ設問では，県平均を7.1ポイント下回っている。 ●分度器の数値の読み取りの設問では，県平均を7.2ポイント下回っている。	・単元の切り替えの際などに，まとめとして説明問題を実施し，学習した内容を自分の言葉で表現できるような機会を設けることで，表現力を養っていく。 ・朝の学習や宿題など，授業以外の時間に角度を調べる機会を設けることで，抵抗感を減らし，分度器に親しみが持てるようにする。また，校庭の遊具など身近な物の角度を調べる学習を行い，さらに意欲を持って取り組められるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は，県・市の平均値を下回っている。 ○基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ設問では，56.3ポイントと昨年度の結果より6.1ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問では，県平均を23.3ポイントと大きく下回っている。	・表から情報を読み取ったり，表したりする活動を多く取り入れることで理解を深め，数量の関係を捉える力を身に付けられるようにする。 ・文章問題への苦手意識を減らし，意欲的に取り組むために他教科においても文章問題を解く機会を設けて，内容を正しく把握する力を身に付けられるよう繰り返し指導する。
データの活用	平均正答率は，県・市の平均値を下回っている。 ○データの活用の領域全体では，45.6ポイントと昨年度と同程度であった。 ●折れ線グラフと表の記述問題では，県平均を13.8ポイント下回っている。	・他教科においてもグラフや表を読み取る時間を確保し，設問の中身を正確に捉える力を養っていく。 ・記述式の設問での無解答率が高いため，自分の考えを友達に伝えたり，文章にして表現したりする活動に力を入れていき，理由や根拠を示しながら説明できる力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立五代小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.3	58.1	57.2
	生命・地球	65.0	71.1	70.0
観点	知識・技能	68.4	75.5	74.4
	思考・判断・表現	48.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取組む態度	37.7	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，市・県の平均値より下回っている。 ○乾電池の向きを入れかえたときの，電流の向きの変わり方を問う設問は，県の正答率を4.7ポイント上回っている。 ○温度による物の体積と変わり方を問う設問は，県の正答率を6.7ポイント上回っている。 ○温度による金属の体積の変化に関する記述の設問では，県の正答率を1.4ポイント上回っている。 ●閉じ込めた空気や水に力を加えたときの押し縮められ方の違いについてを問う設問は，県の正答率を16.4ポイント下回っている。 ●乾電池を2個使って，乾電池が1個のときよりも車をより速く走らせるための回路を作図する設問では，県の正答率を10.8ポイント下回っている。 ●水のすがたについて，水が温められて湯気になったときの状態を問う設問は，県の正答率を8.2ポイント下回っており，校内の正答率はわずか6.9ポイントであった。	・授業で学んだことが自分の身近なところで，どのように生かされているかを実感できるよう，生活とのつながりを授業の中で指導する。 ・実験，観察など体験的な活動を多く取り入れて自然現象に身近に触れ，実験，観察の結果を表や文章，スケッチなどを適切に用いて記録できるよう，授業で支援していく。 ・実験のまとめを行うときは，事象の変化を理科的な用語を用いて記録するように授業で支援する。 ・自分で考えた問いに対する予想や，実験や観察の考察を他者へ説明する機会を増やして説明する力を育てる。
生命・地球	平均正答率は，市・県の平均値より下回っている。 ○記録温度計の記録から天気の変化を推測する設問は，県の正答率を4.9ポイント上回っている。 ○ヘチマの種子の残し方について問う設問は，県の正答率を2.5ポイント上回っている。 ●密閉したビーカーの中に入れた水の変化の様子について問う設問は，県の正答率を12.5ポイント下回っている。 ●ヒトや動物のからだにある関節について問う設問は，県の正答率を12.3ポイント下回っている。 ●ヒトが腕を曲げたときの筋肉の様子について問う設問は，県の正答率を10.5ポイント下回っている。	・当該学年の学習と並行して，前学年までの復習をする機会を設けられるよう，単元の導入時には関連する分野の復習を行うようにする。 ・身近な自然に関心があるので，植物の観察では特徴をよく理解している。植物の育ち方について，スケッチや文章表記をする活動を意図的に取り入れていく。どうしてそのように考えたのかなど，自分の考えやその理由が文章で正しく表現できるよう指導する。 ・自分の予想や考えをまとめる際には，どうしてそう考えたのかなど，根拠を明らかにして書いたり伝えたりするよう支援する。

宇都宮市立五代小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校の宿題をしている」の設問では，児童の肯定率が98.0%で，「学校の宿題は自分のためになっている」の設問での肯定率も93.1%と高かった。日々の家庭学習が定着し，自己の学力を向上させるために宿題は有益だと児童が実感している成果だと思われる。
○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合が79.4%で，県・市の割合を上回っている。また，「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定割合が96.1%で，県・市の割合をやや上回っている。このことから，日々の授業に話し合う活動を取り入れていることで，進んで話し合い活動に取り組む態度が育成されており，意欲の高まりとともに，発言や発表意欲への波及が見られるので今後も継続していきたい。
○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の設問では，むずかしいと答える児童が56.8%と半数より多いものの，県・市の割合と比べると下回る。また，「授業であつかうノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の設問では，91.2%と肯定率が高かった。今後も授業で「ねらい」と「まとめ」をはっきりと示し，さらに自分の考えを書いて表現することを積極的に行っていきたい。
●「家で，学校の宿題をしている」の肯定割合は98.0%と高いが，「家で，学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は，56.8%と県・市の肯定割合より下回る。また，「家で，学校の授業の復習をしている」肯定割合が59.8%と県・市の割合よりも下回る。「学校の授業以外の平日の勉強時間」に関しても，「1時間以上2時間未満」が33.3%，「30分以上1時間未満」が38.2%と，県・市と比べて学習時間が短い児童が多く，学校で出された宿題のみの家庭学習になっている。
●読書に関しては，平日学校以外で「全くしない」・「10分より少ない」の合計が39.3%と県・市の割合を上回っており，読書量も「1さつも読まない」・「月に1～2さつ」の合計が32.4%と県・市の割合よりも高い。特に，本校児童は，学校以外で読書しない児童が多くいる。
●平日にゲームをする時間や，携帯電話やスマートフォンを使っている時間が長く，それぞれで1日に4時間以上使用している児童の割合を市や県の割合と比べると，大きく上回っている。学校でのゲームや携帯電話・スマートフォンの使い方に関する指導に加えて，学校だより等を通して家庭とも連携がとれるよう，保護者にも呼びかけていきたい。

宇都宮市立五代小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み，課題を解決できる手立ての工夫	・宇都宮モデルを活用し，課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ，一人一人の学習の状況を的確に見取り，適切に指導・支援する。 ・結果の予想や課題解決の仕方など，学習の見通しを立てられるようにする。	・各教科とも，多くの領域で正答率が，県・市の平均正答率を下回っている。 ・漢字や計算に個人差がみられる。基礎・基本となる知識・技能の定着が不十分で，前年度までに身に付けておくべき学力が備わっていない。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・各教科とも，多くの領域で正答率が，県・市の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な粘り強く自力解決しようとする意欲と，基礎基本の確実な習得が必要と考えられる。	・基礎基本，既習内容の定着 ・基本的な学習態度の指導徹底	・朝の学習の時間を活用し，基礎・基本の定着を図る。 ・自分の課題にじっくり取り組む習慣をつけることで，日々の授業で，粘り強く取り組み，達成感・満足感を得られるような経験を積むようにする。